

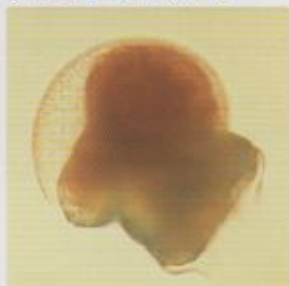
1. 種苗放流の取り組み

鳥取県内で何を放流しているの？

種 苗放流とは、人工的に生産した魚介類を生育に適した海域に放流して、天然の生産力だけでは足りない資源を増強しようとする取り組みです。現在、漁業者は安定した漁獲を目指し、クロアワビ、サザエ、クルマエビの種苗を購入し地元の海に放流しています。

種苗生産時期

生産時期：10月から
飼育期間：約1年6ヶ月



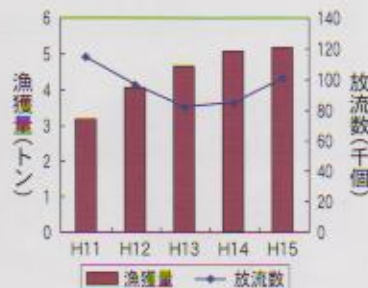
漁業者による放流

放流時の大きさ：30mm
放流時期：3月

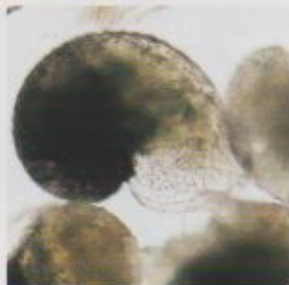


放流数と漁獲量

近年、約10万個を県内各地に放流し、漁獲量は増加しています。



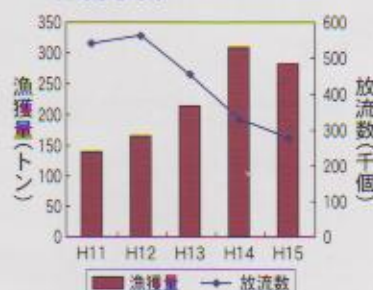
生産時期：6月から
飼育期間：約1年



放流時の大きさ：9mm
放流時期：6月



近年、約30万個を県内各地に放流し、漁獲量は増加傾向にあります。



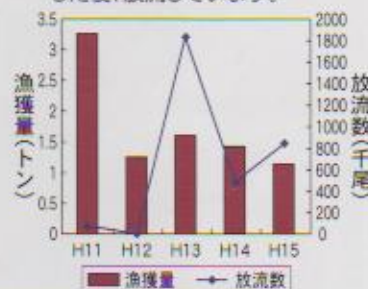
生産時期：5月から
飼育期間：約3ヶ月



放流時の大きさ：28mm
放流時期：8月



美保湾では、漁獲量の回復に向け、約400万尾の種苗を浅瀬の囲い網の中で1週間飼育した後、放流しています。



クロアワビ

サザエ

クルマエビ

放流した種苗を守るため

漁業者は、放流したアワビ・サザエの稚貝がたくさん生き残るよう、岩場の掃除や害敵となるヒトデの駆除、保護区域の設定、密漁監視、漁獲サイズの取り決めなどの資源管理を行っています。



えさ場の豊富な漁場に放流します。



ヒトデなどの害敵を駆除します。

種苗放流による漁獲の安定を目指して（実践活動事例）

禁漁区を設定したアワビ漁場管理（御来屋地区）

御来屋地区では、放流区域を3年間禁漁区に設定し害敵駆除を行いながら漁場管理を実施しています。

サザエの中間育成管理の実施（淀江地区）

淀江地区では、6mmサイズのサザエ種苗を淀江沖のサザエ中間育成ブロックに放し、20mm前後まで大きくしてから再び餌の豊富な漁場に放流しています。

アワビ、サザエ漁場管理の強化（赤碕地区）

赤碕地区では、放流アワビ・サザエの適正な漁場管理を行い安定した漁獲を維持していくため「赤碕町漁業振興プラン」を策定しました。

クルマエビの囲い網馴致放流の実施（境港地区）

境港では、境水道の浅瀬に設置した囲い網にクルマエビの種苗を移し、その中で害敵から身を守る力（砂に潜る力）をつけた後に自然の海に放流しています。



サザエ中間育成ブロックから取り上げたサザエの選別作業（淀江）



クルマエビの囲い網設置作業（境港）

新たな放流種苗の開発に向けて

現在、漁業者からの要望を受けオニオコゼ、ホンメイタガレイ、バイ、イワガキ、メガイアワビの種苗生産試験や放流試験を行っています。

オニオコゼ



磯の高級魚で広範囲に移動しない性質から、放流対象種として漁業者が注目している魚種です。

ホンメイタガレイ



メイタガレイ類の中でも高級魚であるホンメイタガレイは、近年漁獲量が減少しており、種苗放流による資源の回復が期待されています。

バイ



美保湾の特産種。米子・淀江地区の祭りに欠かせないバイは、好不漁が大きく、種苗放流による漁獲の安定が期待されています。

イワガキ



鳥取の夏といえばイワガキ。県の特産品イワガキも漁業者の間から資源の減少が心配されています。

メガイアワビ



岩石海岸が広がる県東部の磯場では、クロアワビより移動範囲が狭く、岩石の表面など明るい場所に生息するメガイアワビが適していると言われています。

ヒラメ種苗放流事業の休止について

県では、天然海域でネオヘテロボツリウムという寄生虫が発生し、放流した小型のヒラメに影響を与えていることが判ったため、平成15年度からヒラメの放流事業を一時休止しました。

(この寄生虫は小型ヒラメの鰓えらや喉のど(非食部)に寄生しており人には害はありません)